

7 「武蔵野市平和の日」制定記念樹

アメリカ軍による日本本土空襲の最重要目標は武蔵野市内にあった中島飛行機武蔵製作所であった。最初の爆撃は1944(昭和19)年11月24日。以後、合計9回にわたる爆撃をうけ、200名以上が犠牲となり、多くの周辺住民も巻き添えとなった。2011年、武蔵野市議会は戦争の悲惨さと平和の尊さを次世代に語り伝えていくため、11月24日を「武蔵野市平和の日」と制定。これを記念し、公園の入口に長崎・山王神社境内にある被爆クスノキの2世が、武蔵野市の木である「はなみずき」とともに植樹された。



中島飛行機武蔵製作所西工場跡地

8 都立武蔵野中央公園

この場所は、かつて中島飛行機のエンジン工場があり、激しい爆撃を受けた場所である。隣接する現在の都営アパートの地に、中島飛行機武蔵製作所が開設されたのは1938(昭和13)年で、それは陸軍専用だった。やがて、海軍も専用工場を求め、1941(昭和16)年に開設されたのが多摩製作所であった(後の武蔵製作所・西工場)。これが中央公園の場所だった。



同工場は、地下1階地上3階(一部4階)鉄筋コンクリート造りで、東西6つの棟が中央部で連結された近代的な大工場であった。戦後、同地は廃墟と化していたが、1953(昭和28)年、改修されて米軍住宅グリーンパークとなった。その後、米軍施設の撤去・跡地の返還と公園化を求める市民らの運動の末、1973(昭和48)年に返還が決定した。そして、1989(平成元)年に、都立武蔵野中央公園としてようやく開園した。

大型説明板

9 中島飛行機武蔵製作所 爆撃照準点

2018年、都営武蔵野アパートの敷地の一部が、都立武蔵野中央公園の一部に編入され、開園した。この場所は、かつての中島飛行機武蔵製作所の中心にあたる。アメリカ軍は爆撃の際に、「爆撃照準点」(Aiming point)を設定する。今回、これに近い場所に、中島飛行機武蔵製作所と空襲の説明板5枚が設置された。また、そのすぐ南側には、公園整備の途上で出土した工場の「地下道」の床面が展示された。さらに、その周辺には、空襲の中を生き延びた白樺の木の2世が植えられた。



中島飛行機武蔵製作所・東工場

10 都営武蔵野アパート

中島飛行機武蔵製作所は、1938(昭和13)年、まず陸軍専用の武蔵野製作所として開設された。おおむね現在の都営武蔵野アパートの場所である。海軍専用の多摩製作所と、1943(昭和18)年に合併した後は、中島飛行機武蔵製作所・東工場と呼ばれた。「零戦」や「隼」のエンジンなど、日本の航空機用エンジンの全生産量のおよそ30%を生産する拠点になった。このため、アメリカ軍の日本本土空襲では最初の目標となり、敗戦までに合計9回の爆撃を受けた。



中島飛行機武蔵製作所「組立工場」跡地

11 NTT 武蔵野研究開発センタ

跡地の利用については、すでに触れたが、最も早い事例が、1950(昭和25)年、中島飛行機武蔵製作所の跡地北辺に開設された、電気通信省「電気通信研究所」である。設置者は、その後、通信省を経て、日本電信電話公社(電電公社)となり、現在のNTT(株)となった。研究所の2、3号館は中島飛行機武蔵製作所の「組立工場」を改修したものだった。地下には、中島飛行機武蔵製作所の特徴の一つである「地下道」も残っていたが、2001(平成13)年、老朽化のため、取り壊された。同研究所構内からはしばしば不発弾が発見されており、1997年には1トン爆弾の不発弾2個が発見された。周辺地域、半径500m以内は立ち入り禁止となり、自衛隊による不発弾処理が行われた。現在、構内への立ち入りは、史料館見学の際のみ可能である。



NTT技術史料館
予約専用窓口
TEL : 0422-59-3311
(平日 10:00 ~ 17:00)
MAIL : mvisit@lab.ntt.co.jp

中島運動場

12 武蔵野市営陸上競技場

現在の市営陸上競技場は、中島飛行機武蔵製作所の厚生施設「中島運動場」であった。周辺には、テニスコート、プール(現在の屋外プールの場所)、土俵などもあった。この運動場では軍事教練や防空演習などを行っていた。大戦末期、本土空襲が激しくなると、スタンドの土盛の下には防空壕が作られ、上には米軍機を撃ち落とすための高射機砲が設置された。1944(昭和19)年12月3日の第2回目の爆撃で、この防空壕が崩落、30名以上が生き埋めとなって死亡。その中には、10代の勤労動員学徒らも含まれていた。

